

平成 26 年 度

小学校教員資格認定試験  
教職に関する科目 (Ⅱ)

生 活

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 26 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を持ち帰ってもかまいません。 (悪い例) ☑ ⊗ ⊕ ⊙

問 1 次の文は、『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 1 章 総説 2 生活科改訂の趣旨 (1) 改善の基本方針」の一部である。文中の四つの下線部のうち、正しい記述はいくつあるか。下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第 2 は、「気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する。また、科学的な見方・考え方の基礎を養う観点から、自然の不思議さや面白さを実感する学習活動を取り入れる」ことである。

生活科においては、その新設当時から気付きを大切にしてきた。前回の改訂においても、「知的な気付きを大切にする指導」を改善の基本方針に位置付けてきたところである。この気付きは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこでは、知的な側面だけが特に強調され続けている。また、気付きは次の自発的な活動を誘発するものとなる。

活動や体験を繰り返したり他者とともに活動したりすることで、自分と対象とのかかわりが深まり、気付きが質的に高まっていくようにするとともに、気付きの質を高めて、次の活動や体験の一層の充実につなげていくことを目指している。

- ア 一 つ
- イ 二 つ
- ウ 三 つ
- エ 四 つ

問 2 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の[第 2 章 生活科の目標 第 1 節 教科目標 2 教科目標の趣旨 (3) 自分自身や自分の生活について考えること]には生活科の教科目標の趣旨が以下のように解説されている。文中の  から  の空欄に当てはまる正しい語句の組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

小学校低学年の児童における自分自身への気付きとして、具体的には次のようなことが考えられる。

第 1 は、集団生活になじみ、集団における自分の存在に気付くことである。例えば、友達とものづくりをしたのがうまく行って「みんなでやったからできました。わたしもがんばりました。またやってみたいです」ということがある。活動における  や成功感、成就感などから、仲間意識や  が育ち、共によりよい生活ができるようになることである。また、集団の中の自分の存在に気付くだけでなく、友達存在に気付くことも大切にする。

第 2 は、自分のよさや得意としていること、また、興味・関心をもっていることなどに気付くことである。例えば、生き物を育てることが得意で、それに興味・関心をもっていること、人や自然に優しくできることなどに気付くことである。そこに  の兆しが現れる。また、自分のよさや得意としていることなどに気付くことは、同時に、友達のそれにも気付き、認め合い、そのよさを生かし合って共に生活や学習ができるようになることである。

第 3 は、自分の心身の成長に気付くことである。例えば、自分が大きくなったこと、できるようになったことや役割が増えたこと、さらに成長できることなどに気付くことである。そして、こうした自分の成長の背後には、それを支えてくれた人々がいることが分かり、感謝の気持ちをもつようになること、また、これからの  をもって、意欲的に生活することができるようになることを大切にする。

	A	B	C	D
ア	責任感	帰属意識	自己同一性の確立	成長への願い
イ	自己関与意識	他者への責任感	自己同一性の確立	生活の目標
ウ	責任感	他者への責任感	個性の伸長・開花	生活の目標
エ	自己関与意識	帰属意識	個性の伸長・開花	成長への願い

問 3 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 生活科の目標 第 1 節 教科目標 2 教科目標の趣旨 (5) 自立への基礎を養うこと」にある「三つの自立」の内容で正しいものの組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- |              |           |           |
|--------------|-----------|-----------|
| ア 学習上の自立     | 生活上の自立    | 精神的な自立    |
| イ 社会科的学習面の自立 | 理科的学習面の自立 | 道徳的学習面の自立 |
| ウ 家庭での自立     | 学校での自立    | 地域での自立    |
| エ 知的側面の自立    | 道徳的側面の自立  | 身体的側面の自立  |

問 4 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 生活科の内容 第 1 節 内容構成の考え方 2 内容構成の具体的な視点」には、9 項目の内容は原則として 11 の具体的な視点を基に構成されているとある。このうち、改訂に当たって基となった考え方について、下のアからエの中から誤っているものを、一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 地域で働く人など地域で生活する様々な人や場所などに慣れ親しみ、それらに心がひかれ、離れがたく感じる気持ちを大切にすることができるようにする必要があることから、地域への愛着について加える。
- イ 生産と消費については、我が国の生産性の向上と消費の拡大、さらに景気回復の一層の推進のために、消費者としての柔軟で適切な行動が求められていることに配慮する必要がある。
- ウ 情報と交流については、情報化社会が一層進展する中、多様な情報手段によって伝え合うことが求められるとともに、他者とのかかわりや交流などのコミュニケーションを深めることができるようにする必要がある。
- エ 身近な自然との触れ合いについては、生命を尊重する意識の低下が指摘される中、これまでと同様に自然の観察や動植物の飼育・栽培などを大切にするとともに、それらを通して生命を大切にすることができるようにする必要がある。

問 5 次の文は、『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 生活科の内容 第 2 節 生活科の内容 (1)」の解説から抜粋したものである。文中の **A** と **B** の空欄に当てはまる正しい語句の組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

児童を取り巻く環境が変化する中、学校の中の生活だけではなく、登下校も含めて、**A** 生活ができるようにすることが課題となっている。このことを踏まえ、今回の改訂では、通学路の様子だけではなく、「その安全を守っている人々」に関心をもつことが加えられた。安全を守っている施設や人々には、子ども 110 番の家や登下校の安全を見守る地域ボランティアの人などが想定できる。なお、安全については、**B** の三つの災害に対する安全確保に配慮することが必要である。

	A	B
ア	楽しく安心して安全な	自然災害, 交通災害, 人的災害
イ	楽しく安心して安全な	気象災害, 地震災害, 交通災害
ウ	地域と調和のとれた	気象災害, 地震災害, 人的災害
エ	地域と調和のとれた	自然災害, 交通災害, 人的災害

問 6 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 生活科の内容 第 2 節 生活科の内容 (6)」の「遊びの面白さや自然の不思議さ」についての説明のうち適切ではないものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 児童が遊びや遊びに使うものを工夫して作ることを通して、それらを実感するよう単元を構成したり学習環境を整えたりすることが大切である。
- イ 児童が楽しんで遊びやおもちゃづくりに没頭してしまうと、学習のねらいに到達しない可能性がある。教師が主導的にかかわり、学習の側面が強い活動にしていくように指導する必要がある。
- ウ 一人一人の思いや願いを生かした多様な遊びを行い、それを互いに響かせ合うような学習活動を展開することが大切である。
- エ 遊びはそれ自体が楽しいことであるが、そこに友達とのかかわりがあると、さらに楽しいものになる。競い合ったり力を合わせたりできるからである。

問 7 次の文は、『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 生活科の内容 第 2 節 生活科の内容 (9)」にある「自分の成長」についての抜粋である。文中の  から  の空欄に当てはまる正しい語句の組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

自分の成長を振り返る活動の中では、過去の自分と現在の自分とが比較され、自分の生活や成長について、様々な人とかかわりがあったことに気付いていく。そして、その気付きを表現したり交流したりすることで、児童は気付きを一層  関連付けていく。このような活動を通して、自分の成長の背後には多くの人々の支えがあったことが分かり、自分の成長を支えてくれた人々に対する感謝の気持ちが芽生えてくることになる。

また、優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、  に児童が気付くための手だてとしては、例えば、幼稚園や保育所の年長児などと触れあう活動を通して間接的に自己の成長を実感すること、生活科における学習カードや作品などを利用し、長期にわたる  をとらえること、友達や周囲の人の意見や感想による  によって自分の成長を見つめ直すこと、などの工夫が考えられる。

	A	B	C	D
ア	増やし	自己の情緒の豊かさ	自己の変容	他者の批判
イ	自覚し	内面的な成長	自己の変容	相互の評価
ウ	増やし	内面的な成長	自分のよさ	他者の批判
エ	自覚し	自己の情緒の豊かさ	自分のよさ	相互の評価

問 8 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 4 章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項」にある説明のうち適切なものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自分と地域の人々，社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行う上で，校外の活動を積極的に取り入れることが必要である，しかし，校外の活動では児童の自立を促すという生活科の趣旨から，なるべく保護者の援助がない方が望ましい。

イ 動植物の飼育や栽培の活動を行う場合には，児童の自然体験の少なさを補う意味でもなるべく多くの種類の動物や植物にかかわるのが望ましい。しかし，低学年の子どもの活動には限界があるので，授業外の時間を活用するような飼育や栽培の活動にならないように，指導計画に十分配慮する必要がある。

ウ 生活科においては，生活科の特質や低学年の児童の発達の特徴などを考慮して，単元又は 1 コマの時間の中で，複数の教科の目標や内容を組み合わせて，児童が具体的かつ総合的に学習できるように工夫することが考えられる。

エ 生活科で扱った内容や教材を連続的に道徳の時間に活用すると，低学年の児童には混乱してそれぞれの効果が十分得られない場合がある。生活科の特質を自覚して，それぞれの区別を明確にする必要とともに，上記の点については指導計画作成の際に十分配慮する必要がある。

問 9 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 5 章 指導計画の作成と学習指導 第 1 節 生活科における指導計画と学習指導 2 学習指導の特質」には以下の五つの点が挙げられている。文中の  から  の空欄に当てはまる正しい語句の組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 児童の身近な  を活動や体験の場や対象にすること
- 児童が身近な人や社会、自然と  活動を重視すること
- 児童の思いや願いをはぐくみ、 を高める学習過程にすること
- 働きかける対象についての気づきとともに、 に気付くことができるようにすること
- 児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、 につなげること

	A	B	C	D	E
ア	生活圏	知的にかかわる	努力や学力	他者の存在	活動の充実
イ	行動圏	直接かかわる	努力や学力	自分自身	学力の向上
ウ	行動圏	知的にかかわる	意欲や主体性	他者の存在	学力の向上
エ	生活圏	直接かかわる	意欲や主体性	自分自身	活動の充実

問10 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成 20 年 8 月)の「第 5 章 指導計画の作成と学習指導 第 3 節 単元計画の作成」の「生活科の単元の特徴」に関する文のうち、文中の  から  の空欄に当てはまる正しい語句の組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 児童の思いや願いの実現に向けた  のある学習活動で構成する。
- 具体的な活動や体験の中に、児童一人一人の思いや願いに沿った  学習活動が位置づく。
- 学習活動を行う中で、高まる児童の思いや願いに弾力的に対応できる  がある。
- それぞれの学校や地域の  を把握し、そのよさを生かす。

	A	B	C	D
ア	必然性	多様な	柔軟性	特性
イ	真剣味	明確な	計画性	価値
ウ	結果	きめ細やかな	態度	課題
エ	盛り上がり	平等な	姿勢	風土

問11 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成20年8月)「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容 (8)」には「幼児との交流を通して相手意識が生まれ、『わかりやすく伝えよう』『相手の気持ちを考えよう』といった気持ちが高まる。」と示されている。また、内容(9)では「幼稚園や保育所の年長児などと触れあう活動を通して間接的に自己の成長を実感する」と示されている。そこで幼稚園や保育所について述べたものとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 平成27年以降、幼稚園と保育所は全て認定こども園に移行する。

イ 幼稚園と保育所を所管する行政庁は文部科学省である。

ウ 学校教育法では幼稚園の教諭は「幼児の保育をつかさどる。」とされている。

エ 保育所で保育士として勤務するには保育士資格か幼稚園教諭免許状のどちらかを所有している必要がある。

問12 国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校 生活)』(平成23年11月)の「第2編 評価規準に盛り込むべき事項等 第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等 2 評価の観点及びその趣旨」のなかで，生活科の「評価の観点及びその趣旨」として記載のないものについて，下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 身近な環境や自分自身に関心を持ち，進んでそれらとのかかわり，楽しく学習したり，生活したりしようとする。

イ 具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。

ウ 学校や家庭，地域での生活に必要な基礎的・基本的知識や習慣，技能などを身に付けている。

エ 具体的な活動や体験によって，自分と身近な人，社会，自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

問13 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成20年8月)の「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容 (5)」には「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」とある。次の文は天気予報で流れてくる用語を説明したものである。それぞれ下のAからJの中から選ぶ場合、正しい組合せとして適切なものを、下のAからEの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 湿った空気が山を越える時に雨を降らせ、その後乾燥した空気が反対側の山を吹き降りて、気温が高くなる現象。
- 2 積雲や積乱雲から生じる強い下降流で、地面に衝突し周囲に噴出する突風である。地上では発散性の突風やしばしば強雨を伴う。
- 3 晩秋から初冬の頃の暖かく穏やかな晴天。低気圧が過ぎ去った後などに、移動性高気圧に覆われた気圧配置の時に現れる。
- 4 夏から秋への季節の移行期に、日本付近に出現して、長雨をもたらす停滞前線。台風の影響でこの前線が活発になり、大雨による被害をもたらすこともある。
- 5 人工熱や都市環境などの影響で都市域が郊外と比較して高温となる現象。都市化の進展に伴い顕著になりつつあり、生態系の変化も懸念される。

A さつき晴れ	B 閉塞前線	C フェーン現象
D 秋雨前線	E 小春日和	F 春一番
G 竜巻	H ダウンバースト	I 熱帯夜
J ヒートアイランド現象		

	1	2	3	4	5
ア	G	E	H	B	I
イ	H	G	A	D	J
ウ	C	H	E	D	J
エ	F	H	E	B	I

問14 春と秋に「町たんけん」で地域に出かけた児童は、その季節ごとに匂ってくる木を見つけてきた。春・秋に匂いを放つ木の組合せとして最も適切なものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

	春	秋
ア	ジンチョウゲ	キンモクセイ
イ	アオダモ	クチナシ
ウ	ソメイヨシノ	スモモ
エ	サザンカ	ミカン

問15 『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成20年8月）「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容（5）」には「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」とある。季節や地域の行事には節句があるが、次の節句についての説明で適切な語句の組合せを下のアからエのうち、一つ選んで記号で答えなさい。

人日の節句の日は  で、節句料理は  として残っている。

	A	B
ア	1月3日	紅白餅
イ	1月5日	白粥
ウ	1月7日	七草粥
エ	1月15日	小豆粥

問16 植物の種は、さまざまな方法によって運ばれて芽を出し繁茂する。植物の種の運ばれ方として最も適切なものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ココヤシの種は、主に風に飛ばされ運ばれる。
- イ カエデの種は、主に自ら弾けて飛んでいく。
- ウ ザクロの種は、主に水に流され運ばれる。
- エ オオオナモミの種は、主に棘で動物に張り付き運ばれる。

問17 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成20年8月)「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容 (6)」には「身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくり，その面白さや自然の不思議さに気づき，みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」と示されている。遊びやものづくりに使う道具の使用法として適切でないものを，下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア はさみは，紙を切るときに，紙を動かしながら刃の奥で切る。
- イ カッターナイフは，切る方向に刃を寝かせて引く。
- ウ のりを使って紙を接着するには，のりをむら無くのばし，紙をしばらく押さえておく。
- エ 千枚通しは，両手で揉むように下向きに力を入れる。

問18 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成20年8月)「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容 (5)」には「身近な自然を観察したり，季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして，四季の変化や季節によって生活の様子が変わること

に気づき，自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」と示されている。ここで取り上げる身近な自然とは，四季の変化を実感するのにふさわしい自然であり，そこで出会う生き物のほか水，氷，雨，雪，風，光なども対象となる。それにかかわって，空から降ってくるみぞれ霰，あられ霰，ひょう霰，雪について，低温期以外にもみられる現象を，下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア みぞれ霰
- イ あられ霰
- ウ ひょう霰
- エ 雪

問19 『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成20年8月)「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容 (2)」には「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」と示されている。家族の手伝いをしている児童は、手伝いをする中で、衣類について興味を持つことがある。文中の( A )から( E )に当てはまる語句の組合せとして適切なものを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① ( A )の移動に関わる性能を保健衛生的機能といい、( B )に影響する。
- ② ( C )とは、布の一方の側から他方へ水蒸気を通過させる機能をいう。
- ③ 汗や水を吸収する性能を( D )といい、繊維表面の( E )と布の構造がかかわっている。

	A	B	C	D	E
ア	熱や汗	スタイル	透湿性	吸汗性	なめらかさ
イ	熱や水分	着心地	通風性	吸水性	ぬれやすさ
ウ	熱や汗	スタイル	通風性	吸汗性	なめらかさ
エ	熱や水分	着心地	透湿性	吸水性	ぬれやすさ

問20 季節には、春夏秋冬の四季があり、それぞれの季節の分かれ目を節分という。節分のうち「立春」が年の始め、すなわち、その日が1年の境目となった。また、季節を示すために暦に作られた目印を二十四節気という。二十四節気を指標として、四季を春・夏・秋・冬と季節を分けると下表になる。 A から D の空欄に当てはまる節気の組合せを、下のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

四季	名 称	
春	立 春	正 月 節
	雨 水	中
	啓 蟄	二 月 節
	春 分	中
	A	三 月 節
	穀 雨	中
夏	立 夏	四 月 節
	小 滿	中
	B	五 月 節
	夏 至	中
	小 暑	六 月 節
	大 暑	中
秋	立 秋	七 月 節
	C	中
	白 露	八 月 節
	秋 分	中
	寒 露	九 月 節
	霜 降	中
冬	D	十 月 節
	小 雪	中
	大 雪	十 一 月 節
	冬 至	中
	小 寒	十 二 月 節
	大 寒	中

	A	B	C	D
ア	芒 種	清 明	処 暑	立 冬
イ	清 明	芒 種	処 暑	立 冬
ウ	処 暑	清 明	芒 種	立 冬
エ	立 冬	処 暑	清 明	芒 種